小学校・中学校・高校の学校教科書こそ、学校卒業後、一生かけて学ぶもの

―岩手県産業教育振興会総会・講演会で考える―

開倫塾
塾長　林明夫

Q：岩手県には、何をしに行ったのでか。。

A：(１)6 月 25 日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングで開催された、岩手県産業教育振興会総会・講演会で、岩手県立専門高校（工業高校、商業高校、農業高校、水産高校、総合高校）の校長先生、会員企業、教育委員会など 70 名の皆様に、90 分間の講演をさせていただくためです。

(２)東京の公益社団法人経済同友会を通してのご依頼でした。

(３)テーマは、「人口減少社会における産業教育の在り方」、副題を「人生は青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」とさせていただきました。一人ひとりの潜在可能性は青天井、無限大で、潜在可能性は一生伸ばし続けることができます。ただし、青天井にするためには、「一生勉強し続ける」ことが大切です。

Q：小学校や中学校、高校、大学、専門学校、大学院など、学校の勉強は社会に出てからも必要なのですか。

A：(１)学校の勉強は積み重ねなので、その学校の次の学年や、上級学校で役に立つことはもちろんです。

(２)しかし、社会に出てからもすべて役に立ちます。役に立たない教科や、役に立たない内容は一つもありません。

(３)ですから、小学校や中学校、高校や大学、専門学校や大学院で学んだ「学校教科書」は、決して処分しない。社会に出てからも繰り返し学び続けることが求められます。

Q：エッ、中学校や高校の「学校教科書」は、社会に出てからも勉強したほうがよいのですか。

A：(１)当然です。冷静になり、中学校や高校の「学校の教科書」をよく読んでみてください。社会に出てからも大切な内容がたくさん書いてあります。

(２)ただし、よく読むと、例えば国語の教科書に載っている作品の多くは、有名な作品の全部ではなく、ごく一部です。

(３)例えば、中国の古典、「論語」は、499 章あるのに、中学校や高校の「学校教科書」で取り上げられているのは、ほんの数章です。

(４)「学校教科書」の編集者の本音は、中国には「論語」という「古典」があることを認知させ、499 章あるうちの代表的な数章を中学校・高校で親しんでもらうこと。あとは社会に出てから、一生かけて、自分で学んでもらいたいのではないかと推測します。

Ｑ：確かに。中学校や高校の教科書を、教科書の執筆者・編集者の立場でよく読むと、各学問分野の「ほんのさわり」だけ紹介されており、あとは、学校卒業後、自分の力でじっくり学んでほしいという意図が感じられ、よくできていますね。

Ａ：（１）はい。よく読めば、小学校や中学校、高校の全教科の教科書では、大切なことはしっかり触れられています。これをテキストにして一生学び続けてほしいという原点が、満載です。

（２）高校社会、日本史や世界史、地理はいうまでもなく、特に「高校倫理」の「学校教科書」は、一生かけて学ぶべき思想家やテーマの「文献案内」として、第一級のものです。これほどバランスよくできているものはありません。

（３）中学校や高校の国語の教科書に紹介・掲載されている作者や作品も、すべて、近現代の作品も含め、「古典」といえるものばかりです。学校卒業後、一生かけて、繰り返し読むに値するものばかりです。

（４）数学や理科、英語はもちろんのこと、音楽や美術、技術・家庭、情報、何よりも保健・体育の中学校・高校の「学校教科書」は、「人生 105 歳時代」を迎えるにふさわしい、一生かけて学び続けるのに値する、「第一級のテキスト」です。

Ｑ：専門高校(工業高校、商業高校、農業高校、水産高校、総合高校)の高校生も、高校で学ぶ専門教科以外のすべての教科を、しっかり学ぶ必要があるのですか。

Ａ：（１）「専門高校」の卒業生の約 7 ～ 8 割近くが、卒業後に 4 年制大学や専門学校に進学するのですから、「リベラルアーツ」の基礎ともいえる、「高校での専門科目以外の教科」も、しっかり学んでおかないと、大学や専門学校での勉強に追いついていけないことが明確です。

（２）大学・専門学校とも、入学後はカリキュラムがびっしり組み込まれています。ですから、専門高校生も、高校時代に、「効果の上がる学習方法」、特に、「予習の仕方」「授業でのノートの取り方」「復習の仕方」「定着のさせ方」「定期試験の受け方」など、しっかり身に着けておくことが求められます。

（３）「辞書の活用の仕方」「新聞の活用法」「読書の習慣」と同時に「図書館の活用方法」を身に着け、「読解力」の育成をしておかないと、大学・専門学校に入学後、大変なことになります。

（４）高校卒業後、就職する人も、一人で、自分の力で、仕事の上で学ぶべきことが山ほどあります。大学・専門学校進学者同様、専門高校時代に、しっかり学び続けることが求められます。

（５）実は、大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院・コミュニティカレッジなど、高校卒業後、正式に学んだ学校や教育機関で用いた「教科書」も、卒業や修了後、きちんと保存。一生かけて学び続けると、少しずつですが「深い理解」を得られます。自分のものとなり、学ぶ喜びが実感できます。高度職業人材として、「深い理解」つまり、自分のことばでいえる(表現・説明できる)ことを目指すべきです。

Ｑ：学習塾、予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

Ａ：（１）専門高校に進学後、学習塾や予備校で継続して学ぶ高校生が少ないことが厳しい現実です。高校の入学前、受験勉強の間に、「専門高校」での学び方もしっかり教育いたしましょう。

（２）できれば、専門高校進学後も、たとえ１～ 2 教科(数学や英語)だけでも、高校卒業まで自塾で指導し続けることが強く求められます。

（３）専門高校の卒業生こそが、人口激減時代、地域を支える重要な人材となりますので、しっかり教育をし続けて参りましょう!!

Ｑ：最後に一言どうぞ。

Ａ：今月も僭越ではありますが、読めばためになる本を紹介させていただきます。

（１）一冊目は、今野真二著「日本語と漢字―正書法がないことばの歴史」岩波新書、岩波書店 2024 年 4 月 23 日刊です。「無文字言語」であった日本語は、「漢字」「平仮名」「片仮名」を取り入れ、「文字言語」となった歴史、経緯がよくわかります。学習塾・予備校・私立学校で、国語や社会を教えるすべての先生の基本テキスト。

（２）二冊目は、関幸彦著「刀伊（とい）の入寇（にゅうこう）―平安時代、最大の対外危機」中公新書、中央公論新社 2021 年 8 月 21 日刊です。NHK 大河ドラマで、平安時代に親しみを持たれた先生方の、必読書。1019 年、道長晩年の日本を救った「平安武者」は未知の敵を前にどう戦い、日本を守ったのか。手に汗握る歴史を実感。現代日本の国防とは何かをお考えください。

（３）三冊目は、渡部昇一著「かくて歴史は始まる―逆説の国・日本の文明が地球を包む」クレスト新社 1992 年 11 月 10 日刊です。渡部昇一先生、渾身の作品です。今月御紹介の一冊目と二冊目と併せてお読みくださると、日本の歴史のありようが「紅」のようにくっきりと見えてきます。

（４）四冊目は、小室直樹著「危機の構造、日本社会崩壊のモデル」ダイヤモンド社 2022 年 8 月 30 日刊です。1971 年執筆論文の再版ですが、全く色あせません。

（５）五冊目、今月のシェイクスピアは、松岡和子訳「恋の骨折り損」シェイクスピア全集 16、ちくま文庫、筑摩書房、2008 年 5 月 10 日刊です。1 ～ 2 か月かけて、シェイクスピア 32 作品を松岡先生の日本語訳でゆっくり読むのも、一興です。

（６）六冊目は、堀川照代・前田稔著「学校図書館サービス論」放送大学教材。NHK 出版 2021 年 3 月 20 日刊です。小学校・中学校・高校時代に学校図書館・公共図書館に慣れ親しませ、大学入学後は大学図書館を最大活用することが、真の「大学進学指導」と確信します。そのために、本書で、学校図書館の現状と課題を学びたく存じます。最大のテーマは、

①地方交付税交付金を活用しての学校図書館の整備

②学校図書館司書の先生の活躍促進

③学校図書館を小学生、中学生、高校生の学力向上に直結させることです。小中学校の「調べ学習」と、必修化された「高校の探究型学習や公共」の授業に、学校図書館ほど役立つものはないと確信いたします。堀川先生は、文字・活字文化推進機構の評議員。

― 2024 年 7 月 9 日記―